

日本の対レバノン支援

平成31年3月
在レバノン日本国大使館

背景

- レバノンの安定は、中東和平及び地域の安定にとって不可欠。
- 1975年から90年まで続いた内戦及び2006年のイスラエルによるレバノン侵攻により、国内インフラの大部分が崩壊。レバノンの安定を維持するためには、インフラの再建と経済開発が極めて重要。
- シリア危機の長期化に伴い約150万人ものシリア難民がレバノン国内に流入。これにより、インフラへの圧力が増大するとともに、難民を受け入れるレバノンのコミュニティへの社会・経済的な負担が拡大。

日本の取組

- 我が国はレバノンの復興のための、①社会における脆弱層への支援、②シリア難民及び難民流入の影響を受けるレバノン・ホストコミュニティへの支援、③社会・経済的に困難な立場にあるパレスチナ難民への支援、を3本柱として対レバノン支援を継続。
- 主な支援分野は、水・衛生、保健医療、保護、廃棄物処理、地雷除去、食糧、教育、社会融和、技能・職業訓練、治安維持(国境管理能力強化等)等。
- 2012年以降の我が国の対レバノン支援総額は約2億1000万ドル。

【我が国の対レバノン支援概要(2012年以降)】

- 二国間緊急無償資金協力(保健医療, 教育): 820万ドル
- 国連機関等を通じた支援: 1億7700万ドル
- 日本のNGOを通じた支援(JPF事業): 1370万ドル
- 草の根・人間の安全保障無償資金協力: 1040万ドル
- JICA研修生としての受け入れ: 約190名(1980年より実施)
- 「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム(JISR): レバノン及びヨルダンから5年間で150名のシリア人を留学生として受け入れ

【主要10カ国の対レバノン支援(2018年)】

米国	4億9400万ドル	31.4%
ドイツ	3億5200万ドル	22.4%
EU	2億7800万ドル	17.7%
英国	8300万ドル	5.3%
フランス	6400万ドル	4.1%
カナダ	5900万ドル	3.6%
オランダ	4900万ドル	3.1%
ノルウェー	4100万ドル	2.6%
日本	3400万ドル	2.2%
イタリア	2700万ドル	1.7%
計	14億7800万ドル	94.0%

【出典: UNRCO】